

## 令和6年度 第3回相生小学校運営協議会 会議録（要点記録）

（敬称省略）

- 1 開催日時 令和6年11月7日（木） 13時20分から15時30分
- 2 開催場所 相生小学校 多目的室
- 3 出席委員 小杉 思主世、大谷 一雄、水谷 加寿代、原 隆之、森田 賢児、  
中川 有香（学校支援コーディネーター）、伊藤 大輔  
鈴木 麻衣子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 廣野 篤男、長澤 秀幸
- 5 学校関係 小林 延和（校長）、鈴木 滋雄（教頭）、鈴木 由香（主幹教諭）、  
村上 友香（CS担当教諭）、伊藤 龍彦（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 龍彦
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、鈴木委員が本日の議事を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

### 9 協議事項

- （1）前期学校評価の結果より
- （2）主体性を育むための具体策について
- （3）地域人材活用について

### 10 会議記録

司会の村上教諭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### （1）前期学校評価の結果より

議長の指示により、鈴木主幹教諭から、別紙資料に基づき、令和6年度相生小学校の前期学校評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 授業参観をして、子供たちの作品の掲示物に先生のコメントがたくさん書かれており、子供たちも先生から、認められていると感じるのではと思う。（鈴木委員）
- ・ 自分で学ぶことや関わる人の思いなど子供たち主体の代表委員会を聴いてみたい。（会長）
- ・ 児童から発信することが、苦手なのではないか、今後の取り組みは？（森田委員）
- ・ 少人数での会話は得意だが、自分の考えを発信することは苦手である。子供たちの願いが少しずつではあるが、出てきている。代表委員会を通して年間スローガンを全校に広めていけるようしている。（校長）
- ・ 自分の考えをまとめる。コミュニケーションの問題ではないか。委員会は活発になっている。いろいろな機会を通じて、情報の受信整理と発信の仕方等を教えていけばいいのではないか。（森田委員）
- ・ 意見を言うのは、勇気がいる。期待してない答えに対して、否定するのではなく、間違えても大丈夫だよと大人が発信し続けることが大切だと思う。（鈴木委員）
- ・ ネットの利用などは先生方の後押しが必要だと思う。（森田委員）

- ・「ええ～」と反応する子供たちからの発言をどう考えているのか？ (会長)
- ・子供たちからの「ええ～」とか「まさか」とか言う言葉に対しては、その意見を大切にしていける必要がある。場を考えて、若手の先生の授業の組み立て方を研修している。こちらの力量も上げていかなければいけない。意見の違いや間違っただ意見に対して、発表はできないが、ノートには書けるので、そこを拾っていく。教室以外で、ボランティアさんからほめられるのは、子供たちが伸びる要素だと思う。 (校長)
- ・先生方がボランティアに今日はどこまでやればいいのか、進捗の状況を話してくれると助かる。 (会長)
- ・相生の華、すごく感動した。5年生の授業を見たが、グループ討議みたいなものがあり、仲間意識を感じた。昨日、子供たちと自転車ですれ違いざまにあいさつをしたら、明るい笑顔で返答があり、うれしかった。 (水谷委員)
- ・仲良し学級と6年生の授業参観をしたが、落ち着いて授業を受けている雰囲気があった。プリントやテストで名前を書かない子がいる。低学年の時に、癖をつけないと上に行った時に子供たちが、話をよく聞かなくなる。話し合い活動で、話す人を見て聞くなど、基本的な態度が大切だと思う。 (大谷委員)
- ・学習については、相生11ヶ条の取組があり、指導されている。 (鈴木委員)
- ・浜松まつり以降、秋祭り・運動会を通じて子供たちからちょっとずつあいさつができてきている。タブレットの活用について、昔は、辞書、今はGoogle, Youtube になっている。何かを調べる時は、タブレットを使っているのか？調べていくだけでは、頭に残らないのでは？ (原委員)
- ・調べたことを言葉でまとめる。高学年は、ICTは一つの道具として使用している。うまく使えるようにしていかないといけない。生まれた時からスマホがあって当たり前なので、怖いところもある。自分の力になるような利用をしていかないと。 (校長)

熟議の結果、全員異議なく、これを承認した。

## (2) 主体性を育むための具体策について

委員からは、以下の発言があった。

- ・あいさつをしてくれたら、あいさつ返しをする。あいさつしてくれて、うれしいと答えることが大切だと思う。あいさつではもう一言、言葉を添えましょう。 (鈴木委員)
- ・PTA活動の中で、保護者に向けて、先生にお礼(手紙・言葉)を伝える活動を行った。サプライズで各家庭において取り組んでくださいと呼びかけると、取り組んでくれた家庭がかなりあった。PTAや地域がきっかけを作る。子どもたちには素地がある。大人がきっかけづくりに役立てばと思う。 (森田委員)
- ・優しい子が多い。自信がなくて声が掛けにくい。ちょっとつながりがあると声掛けしやすくなる。子供たち・地域にも関係づくりをしていかないと。子供はコミュニケーションを求めている。担任だけでなく、応援団の声掛けが助かっている。 (校長)
- ・あいさつだけでなくプラス一言が大切である。 (大谷委員)
- ・子供たちに「元気」「調子どう？」と声を掛けると「元気だよ」と返ってくる。 (伊藤委員)
- ・親子のコミュニケーションは？ (鈴木委員)

- ・ 参観会を見て、グループの話し合いがあり、発表したけどうまくいかないケースでも先生方はうまく指導してくれていると感じました。家庭科の授業、他人の子の方がほめやすい。純粹に言ってあげられる。自分の子にも言ってあげないと感じた。バスケの時は、あいさつもしない子が、学校の中では、1対1の対面で笑顔のあいさつをもらえる子もいる。  
(中川委員)
- ・ 子供が主体的に取り組むための魔法の言葉を思いついた。「私は〇〇さんの助手、何でも言って」と言うと、会話が弾む。  
(会長)
- ・ 名前を付けて言うのはいいですね。認めて、ほめるレベルを下げるだけで、ほめることがいっぱいになる。  
(鈴木委員)
- ・ 忙しくて、ほめられる機会が少ない。子供たちは、ほめられたい。前向きになり、自分から発信するようになってくる。叱るより、「これ出来てるじゃん」の指導が大切である。  
(校長)

### (3) 地域人材活用について

学校支援コーディネーターより、2学期のボランティア活動の報告およびCSボランティア活動を始めるとの資料の説明があった。

- ・ コミスクたよりに登録の流れやボランティア活動の写真を載せてくれると助かる。  
(会長)

### その他の報告事項等

司会から次回学校運営協議会は、2025年2月14日(金)9:00~12:00  
多目的室にて開催する旨の報告があった。